

四條畷市立歴史民俗資料館



第11回 特別展

“むらと道”



1996年11月1日（金）～11月30日（土）



特別展開催にあたって

最近は何々のマスコミで考古学的な話題が非常に多くなった気がいたします。そして日常的に縄文や弥生時代のことが取り上げられるようにもなりました。今も吉野ケ里遺跡の見学者が1000万人を突破したとのニュースが出ています。

以前は遺跡発掘や考古学的な話題は研究者や一部の関係者の間で交わされていたものであります。けれども昨今は数多くの発掘の中から新しい考察や新発見が話題となり、それらを通して古代への関心も高まり、一般化されて来たものだと思います。

そこで今年の特別展は「道」との関連で四條畷を再発見してみたいと考えました。市内にはまだ多くの古道が残っています。その道を利用する中で、付近にある遺跡や、地域の成り立ちにまで想いをめぐらして頂ければと存じます。

遺跡や「むら」と道は相関関係だけで直ちに解答できるものではありませんが何らかの関連がその間に存在するのは当然であります。古道は今の時代には適合できず、次第に姿を変え消えていきつつありますが、成立時はその「むら」や人々の生活の大きな部分を担っていたものであります。

この特別展を機にわずかにしか残影をとどめていない古道ではありますが、新道とも比較する中で愛着をもって見つめて頂ければと存じます。

四條畷市立歴史民俗資料館
館長 西村 隆

凡 例

◇このパンフレットは、1996年11月1日（金）～11月30日（土）の期間に四條畷市立歴史民俗資料館において第11回特別展「むらと道」を開催するにあたり発行したものである。

◇展示及びパンフレットの企画・編集は当資料館職員があたり、パンフレットの執筆及び写真撮影は村上始が担当した。

◇パンフレットを作成するにあたり下記の資料を参考にした。

『歴史の道調査報告書 第二集 高野街道』（大阪府教育委員会 昭和63年）

『歴史の道調査報告書 第四集 奈良街道』（大阪府教育委員会 平成元年）

『歴史の道調査報告書 第五集 京街道』（大阪府教育委員会 平成元年）

『四條畷市史 第一巻』（四條畷市教育委員会 昭和59年）

『探訪古代の道3』（上田正昭編 1988年 法蔵館）

『河内名所圖會』（秋里籬嶋編 堀口康生校訂 平成2年 柳原書店）

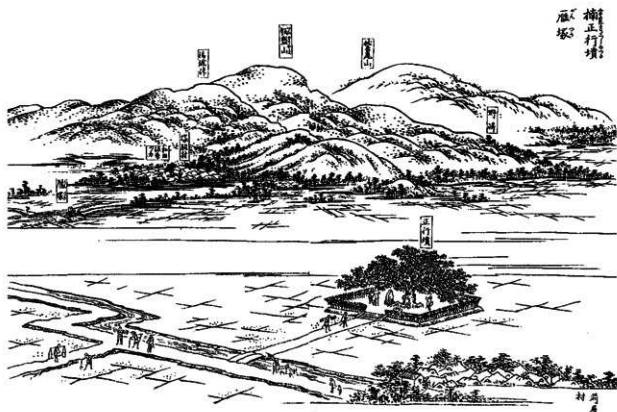
『石造物調査報告書（第一次）』（四條畷市教育委員会 平成五年）

◇特別展の開催にあたり大阪府教育委員会、酒井泰子氏にご協力いただいた。

四條駅市内には、国道や府道をはじめとして多くの生活道路が通じています。それらのなかには国道163号線や旧国道170号線のように昔からの道を一部利用して造られたものもあります。近年市内も開発が進むにしたがって、新しく道を作ったり既存の道を改修したりしています。それはわたしたちの生活が便利になっていく上で必要なことではありますが、一方では多くの遺跡や昔からの道といったものを破壊していることも事実です。今回の展示では“むらと道”と題した中で、このように年々変わっていく“風景”を振り返るとともに道の成り立ちと遺跡との関係を考えてみたいと思います。

わたしたちの生活のなかで道というものはどのような役割をはたし、どのようにして出来上がっていったのでしょうか。

それは当然のことですが、人間の行動範囲の拡大と深く関係があります。たとえば石器の材料であるサヌカイトを手に入れるために二上山へ行くことによってその地域の人々と出会い、その間に交流がはじまると道が出来上がっていくと考えられます。このようにして交流範囲が広がり、その頻度や重要性が増すことによって道が幹線として整備されていきます。その全国的なものが東海道や山陽道であり、地域的なものが今回紹介するような道であると考えます。



『河内名所圖會』より



(資料館前)

東高野街道

空海が高野山を開いた平安時代以降、都の天皇や公家たちを中心に高野詣でが盛んとなり、この風習はのちに武士や庶民に広がっていきました。江戸時代、京都方面から大阪府下を通過して高野山へ向かう道には、大きく西高野街道・中高野街道・東高野街道の3ルートがありました。

東高野街道は、京都府八幡市の洞ヶ峠から河内国に入り、生駒山地の西麓に沿って南下し紀見峠を越えて高野山へ向かう道です。一

説には平安時代の貴族たちが高野詣でをする時は、南都の諸大寺を参詣したあと奈良盆地を南下したり、大阪の四天王寺や住吉大社を参詣してから高野山へと赴くことが多かったので、この街道を利用することはあまりなく、むしろ庶民が高野詣でをするようになってから往来者が多くなったと言われています。しかし長岡京（8世紀末）以後の南海道を受け継いでいるとされているこの街道の役割は大きく、南北朝の動乱期には軍事道路として利用されたり、豊臣秀吉が文禄堤を築く以前は陸路で京都から大阪へ向かうための重要な道でした。



(砂 妙法寺付近)

河内街道

河内の平野部は、深野池などの湖沼地帯が広がる低湿地帯です。その中の少し高いところの自然堤防などを利用して集落がつくられ、道が通じていました。そうした道を南北につないだものが河内街道です。

道そのものは古代から存在し河内の中央部を南北に結ぶ重要なものであったと考えられています。街道沿いは南北朝動乱の舞台となり、室町時代には守護が京都と支配地を行き来するよう

になったことで道が整備されるようになりました。当時は河内湖の名残の深野池が存在していたためそれを迂回していたと考えられますが、江戸時代に深野池などが埋め立てられると、その通行も便利になりました。

最終的にこの街道が枚方から八尾まで一本の道になったのは明治時代になってからのことです。それ以後、大東市深野北から津の辺に出、市内の楠木正行の墓所前をとおり真っすぐ砂に至る道筋に大きく付け替えられました。

清滝街道



清滝中町（右の森が国中神社）

明治時代、清滝越えの道としてその名が定着していた清滝街道は、甲可村大字中野（東高野街道との交差点）から清滝峠を越えて田原村大字下田原に出て、生駒山地の東側山麓沿いに南下し、龍田町で奈良街道に合流するまでとされています。市内蒨屋本町には、延宝三年銘（1675年）の清滝街道の起点を示す道標があります。これは、和泉・河内の道標としては河内長野市に存在する万治四年（1661年）のものに次いで古く、市内では最古のものです。

この清滝街道は、奈良時代に行基が開いた道として「行基道」とも言われています。街道沿いには奈良時代の遺跡が点在しており、市域においては、中野遺跡・四條小学校内遺跡・木間池北方遺跡の集落跡や白鳳時代創建の正法寺跡があります。

中世以降の遺跡も多く存在しており、特に戦国時代には街道のすぐ南の飯盛山に飯盛城が築かれ拠点となっていたため、豊臣秀吉が文禄堤を築く以前は、大坂へ向かうための道として東高野街道とともに重要な役割をはたしていたと考えられます。



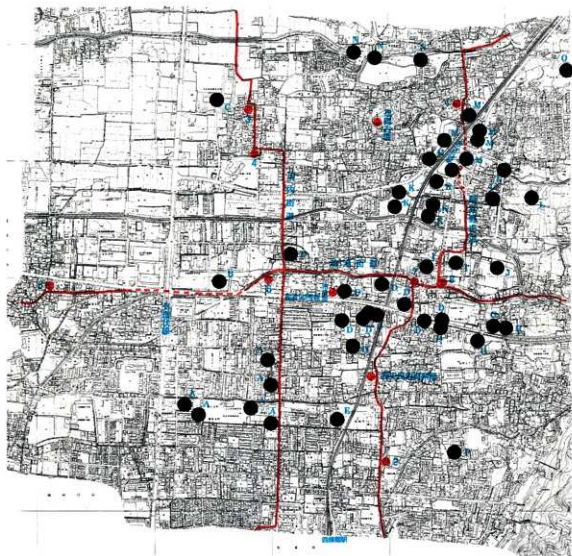
上田原（中央の森が田原城跡）

古堤街道

大和川・恩智川・平野川・古川・寝屋川といった河川が集まる河内の中央部は、湖沼地帯・低湿地として残ったところで、宝永元年の大和川付け替え工事によって最後まで残っていた深野池・新開池が干拓されて新田になりました。古堤街道は、その旧大和川や寝屋川の堤防上を京橋を起点に河内平野を東西に横断する道路です。

大坂城北側の京橋を起点とするこの街道は、中垣内で東高野街道と交差し生駒山を越える山中で二つに分かれ、南側の道は生駒方面へ向かい、北側の道は龍間から上田原の田原城北側を通り、月泉寺・住吉神社を経て清滝街道と合流しています。

田原城は、戦国時代に築城された飯盛城の支城としてその東側を防衛していたと考えられることから、この街道の前身がその時期には存在していたと思われます。



- 1 - 高さ約50cm・幅約19cmの角柱形。正面に「南燈明講」、右側面に「弘化二乙巳六月、世話人…」、左側面に「星田妙見」、裏面に「大坂」と刻まれている。道標の隣の自然石は、付近の人から「大日さん」と呼ばれて信仰されている。
- 2 - 川崎集会所前で東高野街道から北東へ入る道の分岐点に建てられている。この道は江戸時代に市内の平野部と山間部を結んでいたものであり、分岐点は南野村領主・旗本三好家の触れ書きが掲げられる高札場であった。
「右叢村観世音道」「観音……起雲山龍尾寺」と刻まれている。
- 3 - 高さ約1m・幅約25cmの尖頭形角柱。正面に二行並列で「右 北河内街道 枚方道 堀溝街道・左 河内街道 枚方道 楠公 住道 八尾道」、裏面には「大阪府」と刻まれている。
- 4 - 妙法寺の山門脇に建てられている高さ約82cm・幅約21cmの尖頭形角柱。正面には「左 河内街道」、左側面には「右 河内街道」、右側面には「明治三十五年五月新設」と刻まれている。

- 5—高さ約80cm・幅約65cm自然石。正面に二行並列で「これより清瀧 やはたみちすじ」、裏面には「延宝三乙卯年七月五日」と刻まれている。「延宝乙三卯年」とは1675年のことであり、本市で最古の道標である。
- 6—昭和48年までは、国道163号線の西中野交差点の東南側に建っていた。正面に「鴈塔」、左側面に「施主寺尾幸助 寛延二己巳歳中春 取次 増井甚兵衛」、右側面に雁塔の由来が刻まれている。傍らには、この雁塔を移築する際に出土した「当所古老伝鴈石塔婆 正保二年六月中野村」と刻まれた古い雁塔が建っている。
- 7—東高野街道と清瀧街道が合流する地点で清瀧川にかかる橋。三坪橋と呼ばれる台形をした珍しい石橋である。
- 8—清瀧街道と東高野街道が交差する北東側に建っている三基の道標。
 左側の道標は高さ約125cm・幅約22cmの尖頭形角柱で、正面に「右 清瀧街道 すぐ東高野街道」と刻まれている。
 中央の道標は高さ約70cm・幅約40cmの蒲鉾形角柱で三行の文字列がある。右側には「東 いせなら」、左側には「南 かりや」と刻まれている。
 右側の光背形地蔵道標には、右側に「右 なら いせ」、左側に「左 京 や へた道」、側面に「寛政十年天十一月日 中野村撫中」と刻まれている。寛政十年天は1798年である。



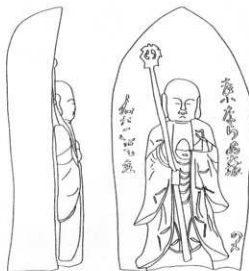
「雁塚」物語・【河内名所圖會】より





9-延元元年(1336年)に大坂一結衆によって建てられた五輪塔。府の有形文化財に指定されている。

10-光背形地藏道標。右側に「東なら 西大坂 道下かたのえ」、左側に「為六道衆生 法界念生念仏」と刻まれている。



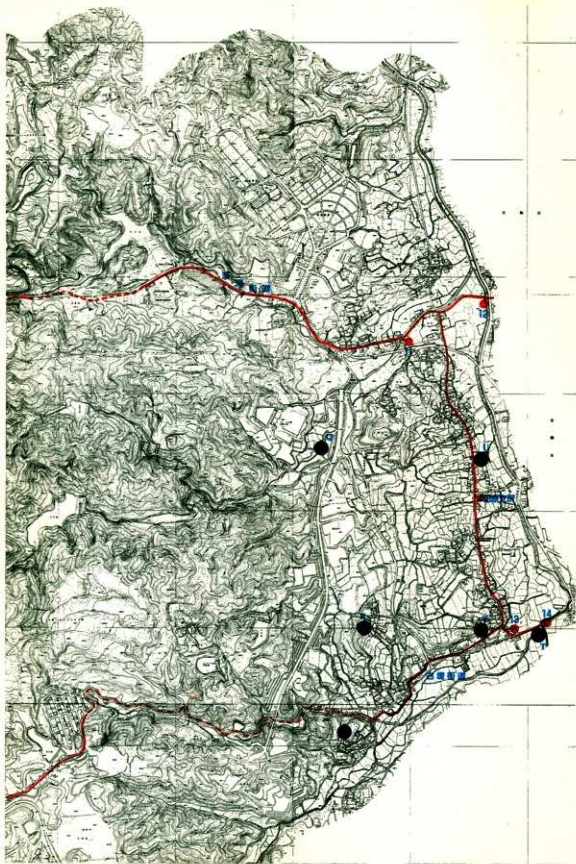
10



5



清滝街道 (左 国中神社)



- 11-石塔形道標。正面に「西川大吉」、右側面に「左やましろ 右なら郡山」、左側面に「すぐ大坂」、裏面に「弘化二歳巳七月上浣」と刻まれている。弘化二歳は1845年である。
- 12-尖頭形角柱。高橋の下田原側に大正八年（1919年）に建てられた大阪府と奈良県の国境碑である。
- 13-高さ約130cm・幅約24cmの尖頭形角柱。
正面に「右 古堤街道」、右側面に「すぐ 古堤街道」、左側面に「明治二十九年五月建立 大阪府」と刻まれている。（右の写真）
- 14-尖頭形角柱。上田原の两国橋のたもとに大正十二年（1923年）に建てられた大阪府と奈良県の国境碑である。



13

遺跡の概要

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| A-雁屋遺跡 | 弥生時代の集落跡・墓地、中世の集落跡 |
| B-鎌田遺跡 | 弥生時代の墓地、古墳時代・中世・近世の水田跡 |
| C-砂遺跡 | 縄文・古墳時代・中世の集落跡 |
| D-中野遺跡 | 古墳・奈良・平安時代・中世の集落跡 |
| E-南野米崎遺跡 | 古墳時代の集落跡 |
| F-南野遺跡 | 古墳・奈良・平安時代・中世の集落跡 |
| G-木間池北方遺跡 | 縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代・中世の集落跡 |
| H-大上遺跡 | 古墳時代、中世の集落跡・古墳 |
| I-奈良井遺跡 | 古墳時代・中世の集落跡、古墳時代の祭祀跡 |
| J-正法寺跡 | 白鳳時代～中世の寺院跡 |
| K-南山下遺跡 | 古墳時代・中世の集落跡 |
| L-岡山南遺跡 | 縄文・古墳・平安時代・中世の集落跡 |
| M-忍ヶ丘駅前遺跡 | 古墳・平安時代・中世の集落跡 |
| N-更良岡山遺跡（讚良川遺跡） | 旧石器・縄文・古墳時代の集落、古墳 |
| O-坪井遺跡 | 古墳時代・中世の集落跡 |
| P-上清滝遺跡 | 平安時代の墓地、中世の集落跡・池 |
| Q-田原遺跡 | 縄文・弥生・古墳時代・中世の集落跡 |
| R-寺口遺跡 | 中世の寺院跡・墓地 |
| S-田原城跡 | 中世の城跡 |
| T-森山遺跡 | 中世の集落跡 |
| U-的場遺跡 | 中世の集落跡 |

